



八尾市の建築を紹介する
「八尾の建築案内ー伝えたい建築ー」
の表紙デザイン



「学校編」2023年のチラシ



「古民家編」2024年のチラシ

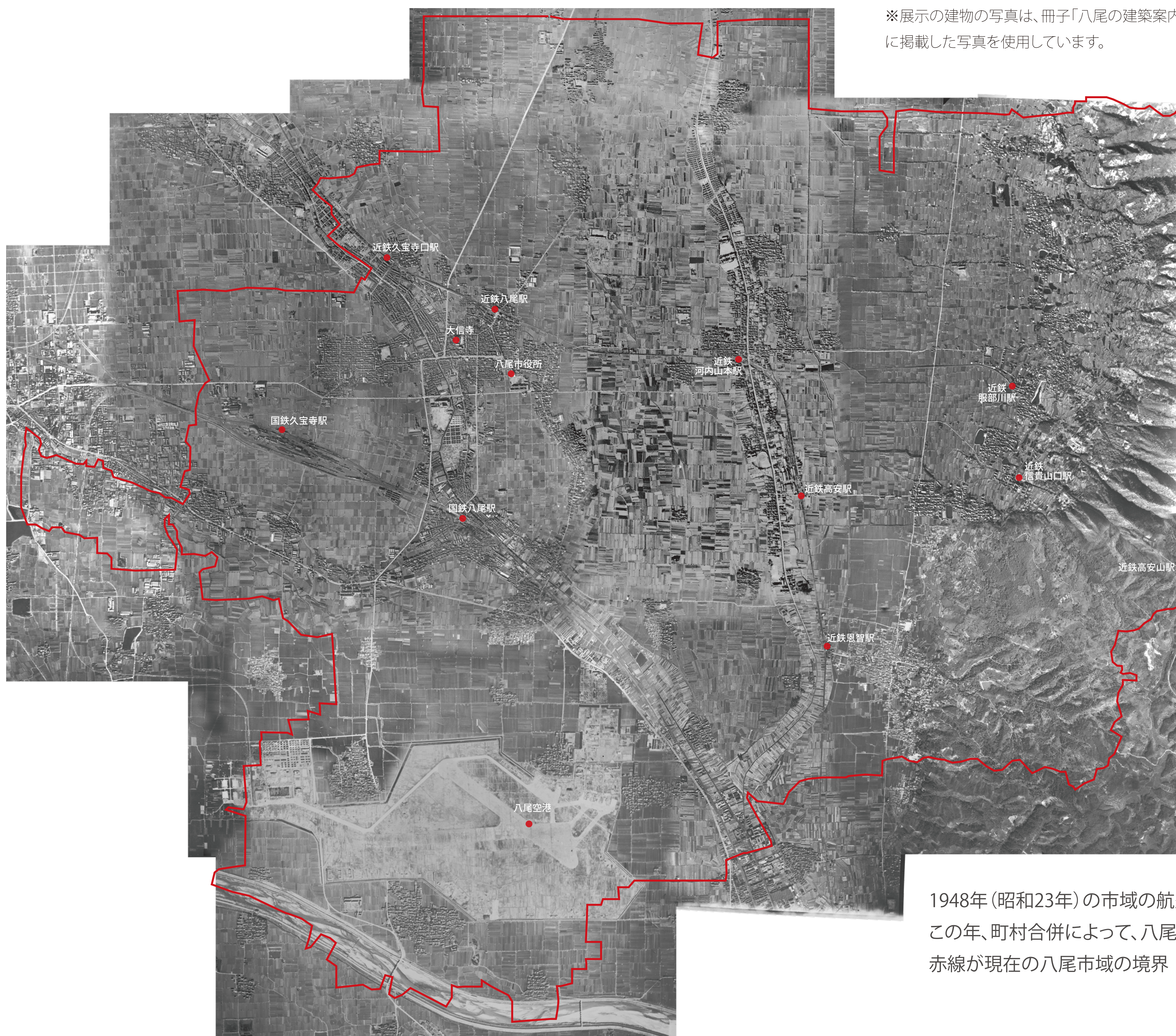


「今昔編」2025年のチラシ

今年は、昭和がはじまった1926年(昭和元年)12月25日から100年になります。昭和は、日本の元号の中で最も長く62年と14日間です。(元年と64年(1989年)がそれぞれ7日間)

八尾市は、昭和の初めの昭和23年(1948年)に八尾町・久宝寺村・大正村・西郡村が合併し発足しています。その頃は、市域全体に田園風景が広がり、茅葺や瓦葺屋根の家が集まって建つ集落が点在していました。今の近鉄大阪線(当時大阪電気軌道)は、近鉄八尾駅をはじめ久宝寺口駅・河内山本駅・高安駅・恩智駅は、昭和の少し前の大正13～14年の大阪電気軌道国分線の延伸にともない開業しています。信貴線と高安山までのケーブルカー線も、昭和5年(1930年)開業しました。その直後の昭和の初めに、玉串川沿い、信貴山口駅周辺で住宅開発が行われています。昭和の中頃の昭和30年代終わりごろの高度経済成長期から戸建て住宅が増え人口も急増します。そのため田んぼが減っていきました。その傾向は、昭和の終わりから平成の初めのバブル景気まで続きます。地下鉄八尾南駅は、谷町線の延伸にともなって昭和55年(1980年)に開業しました。

八尾の伝えたい建築の展示会は、市政70周年の際に発行した、冊子「八尾の建築案内ー伝えたい建築ー」(2018年10月15日発行)の内容を2023年より毎年「学校建築編(2023年)」「古民家編(2024年)」「今昔編(2025年)」と展示してきました。今回の「昭和100年編」で4回目の展示会になります。今回の展示会では、八尾の昭和に建築されたもので現存するものと失われたもの様々な建物などの展示します。今回の展示にあたり、資料の提供など、ご協力頂いた方々に感謝申し上げます。



※展示の建物の写真は、冊子「八尾の建築案内ー伝えたい建築ー」に掲載した写真を使用しています。

1948年(昭和23年)の市域の航空写真、
この年、町村合併によって、八尾市が誕生しました。
赤線が現在の八尾市域の境界

昭和23年に八尾町、龍華町、久宝寺村、大正村、西郡村が合併し、八尾市ができました。当時人口は、現在の1/4の6.5万人で、田園風景がひろがっていました。市役所は、八尾町の木造の小さな町役場を仮庁舎として使っていました。その3年後、やっと新しい庁舎ができています。現存していませんが、当時の八尾市の公共建築を代表するのは、この市庁舎や市民病院です。市内の建物は、ほとんどが木造でした。その中で鉄筋コンクリートの公共建築は、近代的なイメージの存在でした。

昭和23年 発足直後の
八尾市役所入口前
中央 右から4人目
初代市長 脇田幾松氏



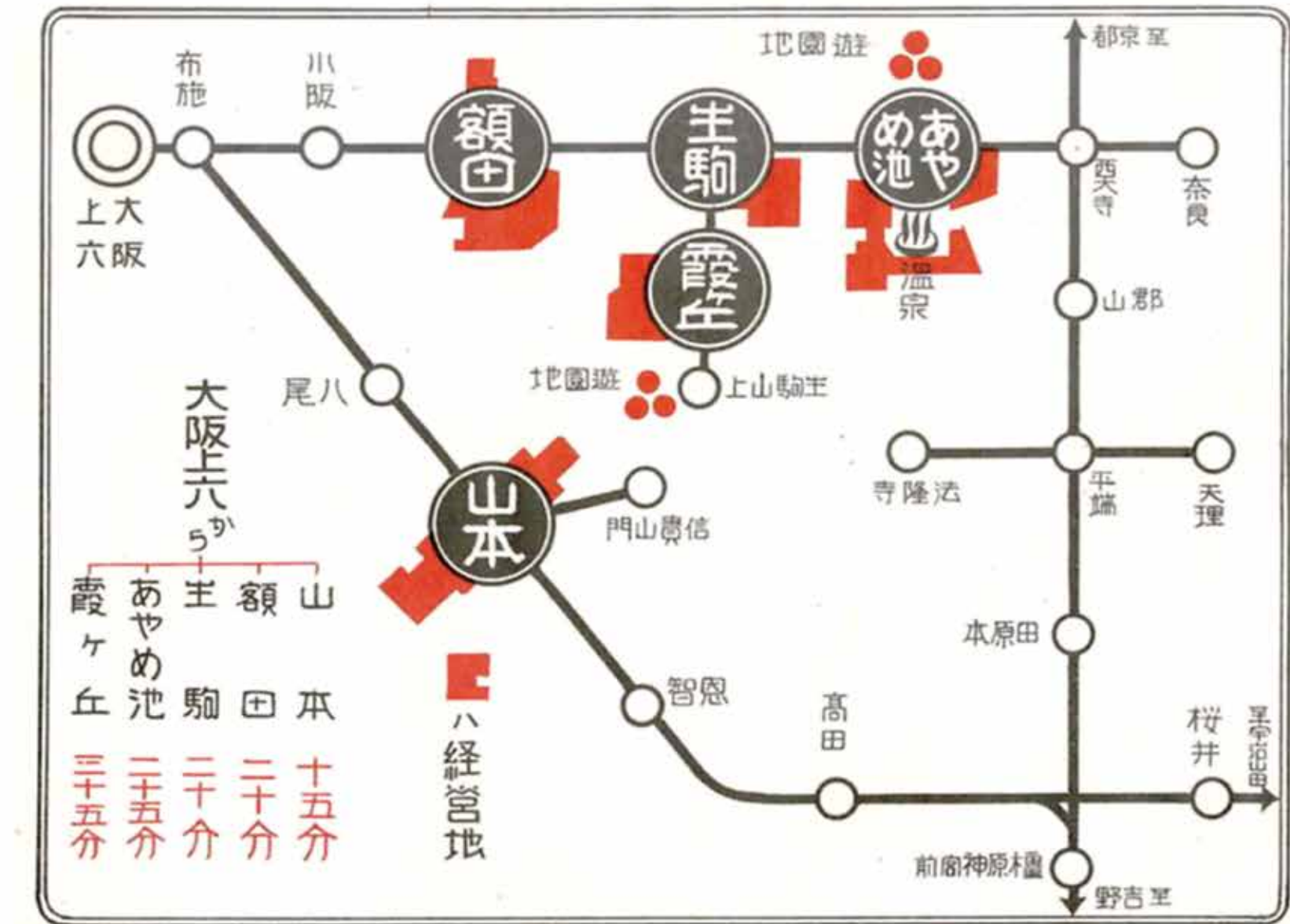
年代	社会状況できごと	八尾市のできごと	八尾市の公共建物
1925			
昭和元年	- 大正天皇の崩御、「昭和」に改元(1926) - 世界恐慌(1929)	昭和元年の八尾市域(現在)は、八尾町、龍華村、久宝寺村、大正村、西郡村、南高安村、北高安村、中高安村、曙川村、志紀村、三野郷村の一部、恵我村の一部とたくさんの町村に分かれていた。	 ▲ 発足当時1948年(昭和23年)の初代八尾市役所、八尾町役場を利用  旧 八尾市民病院
昭和20年	- ポツダム宣言受諾 無条件降伏 - 都市大空襲・広島・長崎原爆投下(1945)		
1948	福井地震(1948)	八尾市発足 八尾町、龍華町、久宝寺村、大正村、西郡村が合併(1948)	
1950	- 朝鮮戦争勃発(1950) - 日米安全保障条約調印(1951)	- 八尾市民病院開設(1950) - 旧市役所庁舎完成(1951) - 教育委員会発足(1952)	
昭和30年	- 国際連合に加盟(1956) - 東京タワー完成(1958) - 皇太子ご成婚(1959)	- 河内市の福万寺・上之島地区を編入 南高安町・高安村・曙川村を合併(1955) - 山本球場が近鉄より市に移管(1956) - 志紀町と合併(1957) - 旧市役所庁舎増築(1958) - 高安山一帯が金剛生駒国定公園に指定(1958) - 労働会館(山本)竣工・開館(1960)	 旧八尾市役所庁舎 八尾市の人口は、昭和33年(1958年)11.3万人でした。昭和38~46年(1963~1971年)は、年間1万人以上人口が増え、昭和50年には、25万人を超えました。昭和40年代半ば~50年(1970年~1980年)頃、人口急増のため、小中学校建設などが中心で、その他の公共施設の建築ができませんでした。  八尾警察署旧木造庁舎 下の写真は、完成当時の大阪中央環状線、奥に近鉄久宝寺駅高架が見えます。まだ、西側片側しか完成していません。完成した片側で対面通行しています。▼ 
1960		松原市若林地区の一部編入 市民憲章制定(1964)	
昭和40年	- 東京オリンピック開催(1964) - 総人口1億人突破(1966)	- 大阪府警 八尾警察署 旧庁舎 竣工(1966) - 教育センター開設(1967)	 労働会館(山本)  大阪府警旧八尾警察庁舎
1970	大阪万国博覧会一大阪(1970)	- 国道170号大阪外環状線 供用開始(1969) - 府道大阪中央環状線 供用開始(1970) - 久宝寺緑地 開園(1971)	
昭和50年	- 札幌冬季 オリンピック開催(1972) - 沖縄日本返還(1972) - 第1次オイルショック(1973) - 戦後初のマイナス成長(1975)	市立図書館(旧八尾図書館)開設 第1回八尾まつり開催 近鉄八尾駅 高架駅 開業(1978)	 教育センター(2010年解体 現在八尾商工会議所)  旧八尾図書館
1980	- 日中平和友好条約(1978) - 第2次オイルショック(1979) - イラン・イラク戦争勃発(1980)	- 地下鉄谷町線八尾南駅 開業(1980) - 八尾西武開店(1981) - 近畿自動車八尾IC 供用開始(1987) - 歴史民俗資料館 開館(1987)	
昭和60年	- 日航ジャンボ旅客機墜落(1985) - チェルノブイリ原発事故(1986)	八尾市文化会館 開館 プリズムホール(1988)	 八尾市文化会館 プリズムホール  歴史民俗資料館
1990	昭和天皇崩御、「平成」に改元。(1989)		

山本住宅（大軌電車分譲住宅）

住生活月間 展示会

山本住宅地は、大正14年(1925年)に大阪電気軌道（大軌）に山本駅が開かれたことにはじまり、昭和5年(1930年)頃に作成された大軌電車の分譲住宅パンフレットには、大阪より南東方向、玉串川の清流に沿い約3万坪の砂地の乾燥した土地で緑豊かな信貴・生駒山と望み、空気がきれいで理想的健康地であるとあります。電気・上下水道を完備している(予定)と、大阪上六駅(現近鉄大阪上本町駅)より電車で、15分かかるとあり今とほぼ変わりません。この中で当時の最新の間取りが提案されています。

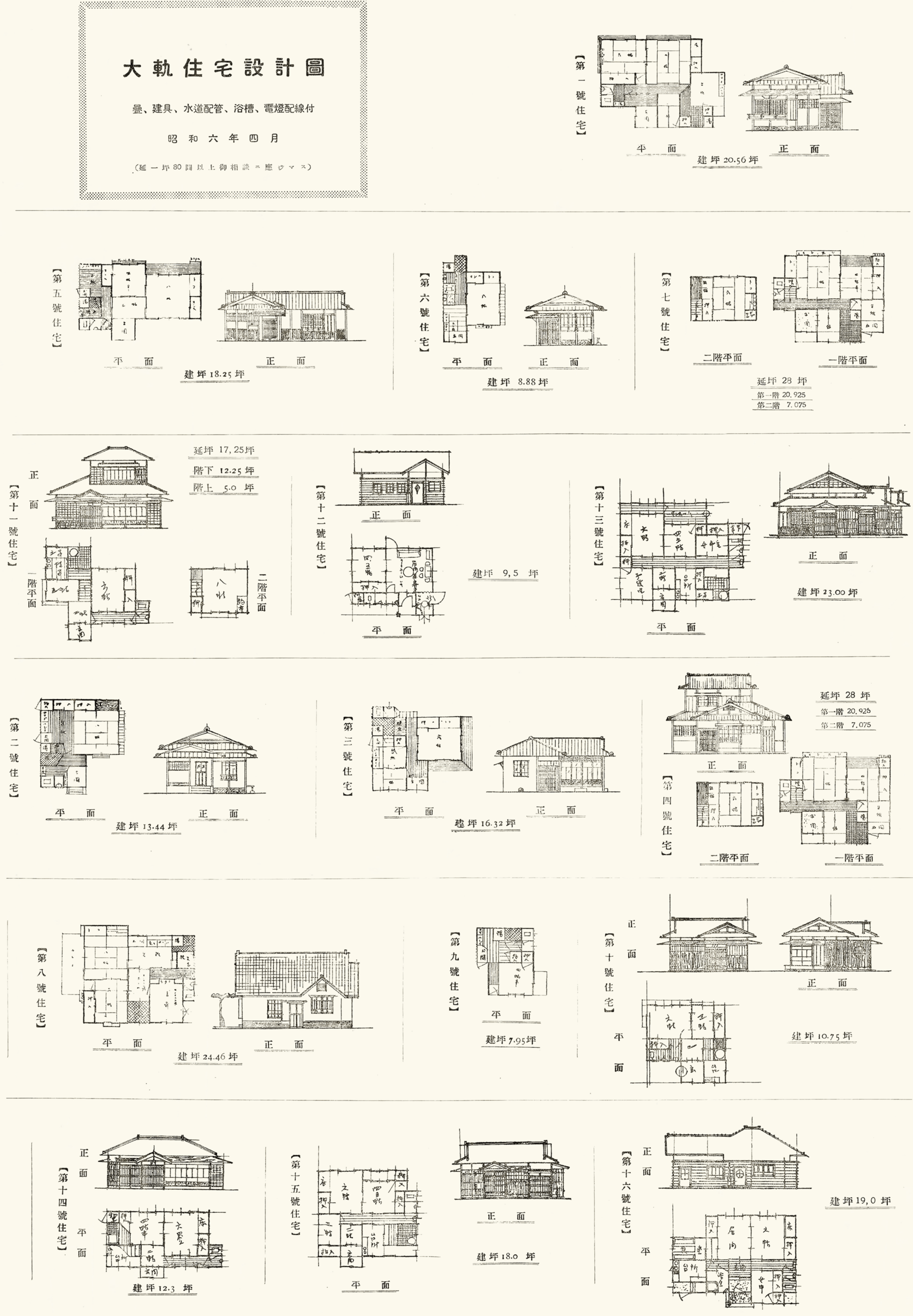
左のパンフレットには、分譲地の住宅のモデルプランが16戸示されています。間取りの特徴は、敷地が約80坪～220坪に対して、住宅の延べ床面積が、8坪～28坪で面積の小さいものが多く、平屋建てが中心で2階建ての2階は1間のみです。玄関に2帖～3帖の小間がついています。内風呂があり、台所には、カマドや流しがあります。板ノ間の食堂や居間のある住宅もあり、少し面積が大きい住宅では、女中(使用人)部屋がある家もあります。サンルーム・子ども部屋がある家もあり当時としては珍しい室名だと思われます。新しい暮らしの提案がある間取りとなっていることが伺えます。



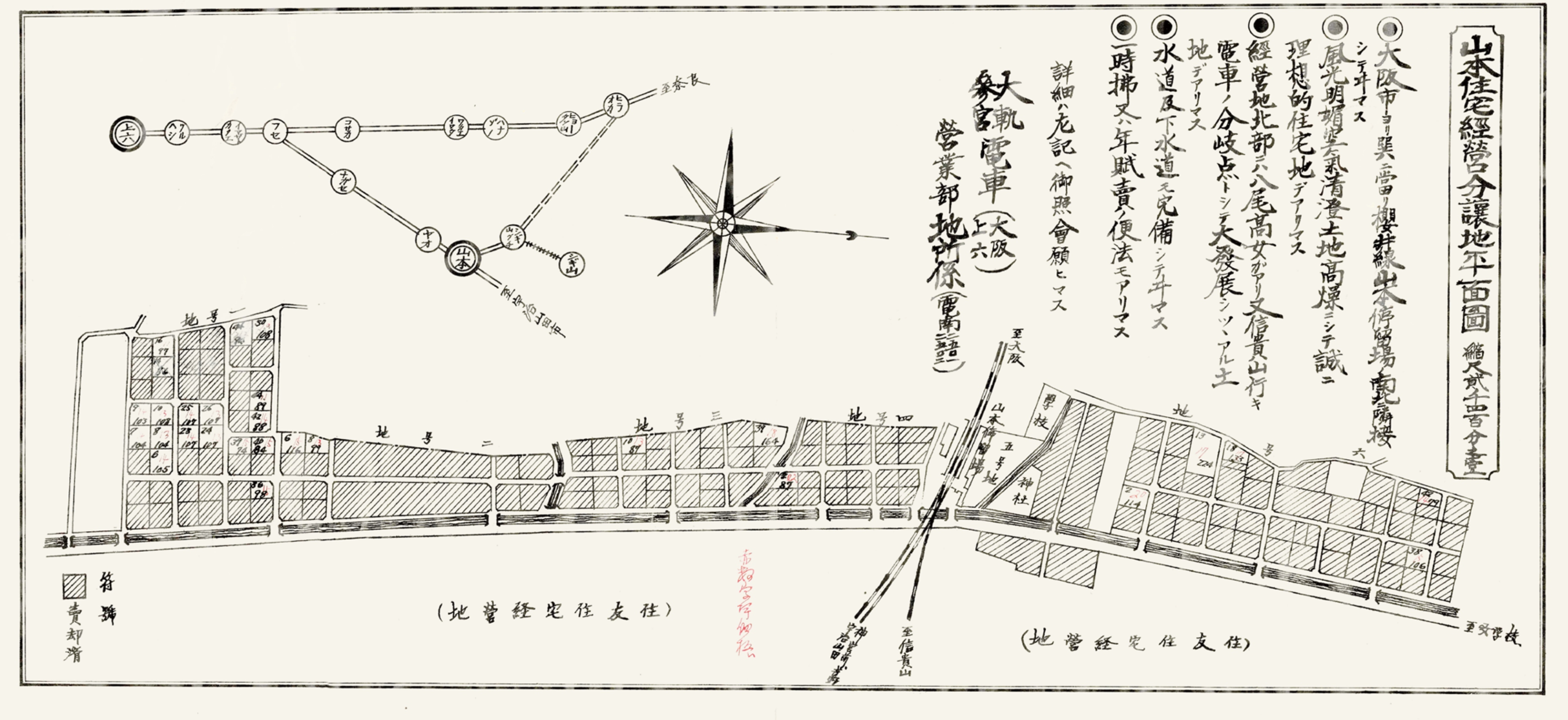
山本住宅の掲載がある「大軌電車経営土地・住宅・遊園地案内」のパンフレットの表紙



「大軌電車経営土地・住宅・遊園地案内」のパンフレットの郊外住宅である山本住宅の特徴の紹介と購入についての案内



昭和6年(1931年)、大軌電車分譲住宅用地のための住宅のモデルプランや外観(立面図)が示されたパンフレット(横長ヨコ70cm×タテ27cm)当時最先端の間取りだと思われます。和風の入母屋と寄棟屋根の外観(立面図)の中に、洋館風の外観(立面図)の住宅もある。建築費坪80円以上という記載があり、掲載される間取りの住宅は、700円～2300円ぐらい工事費が必要だと思われます。



山本住宅分譲地の土地の区画地図。山本駅を中心に玉串川に西隣接した南北に細長い分譲地となっていることがわかる。ほとんどが売却済みとなっている。下の数字が敷地の坪数と思われるが狭い敷地の80坪広い敷地だと200坪以上ある。

高安山麓住宅（大軌電車分譲住宅）

住生活月間 展示会



※1 住宅改良会

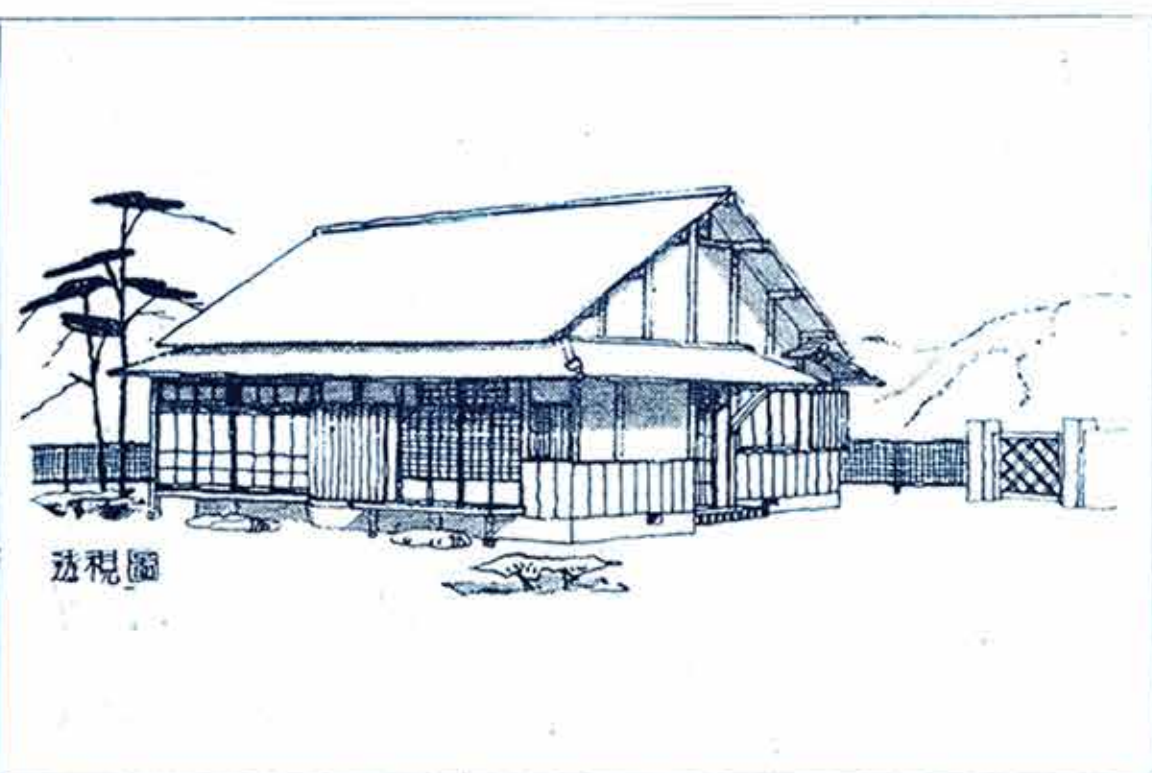
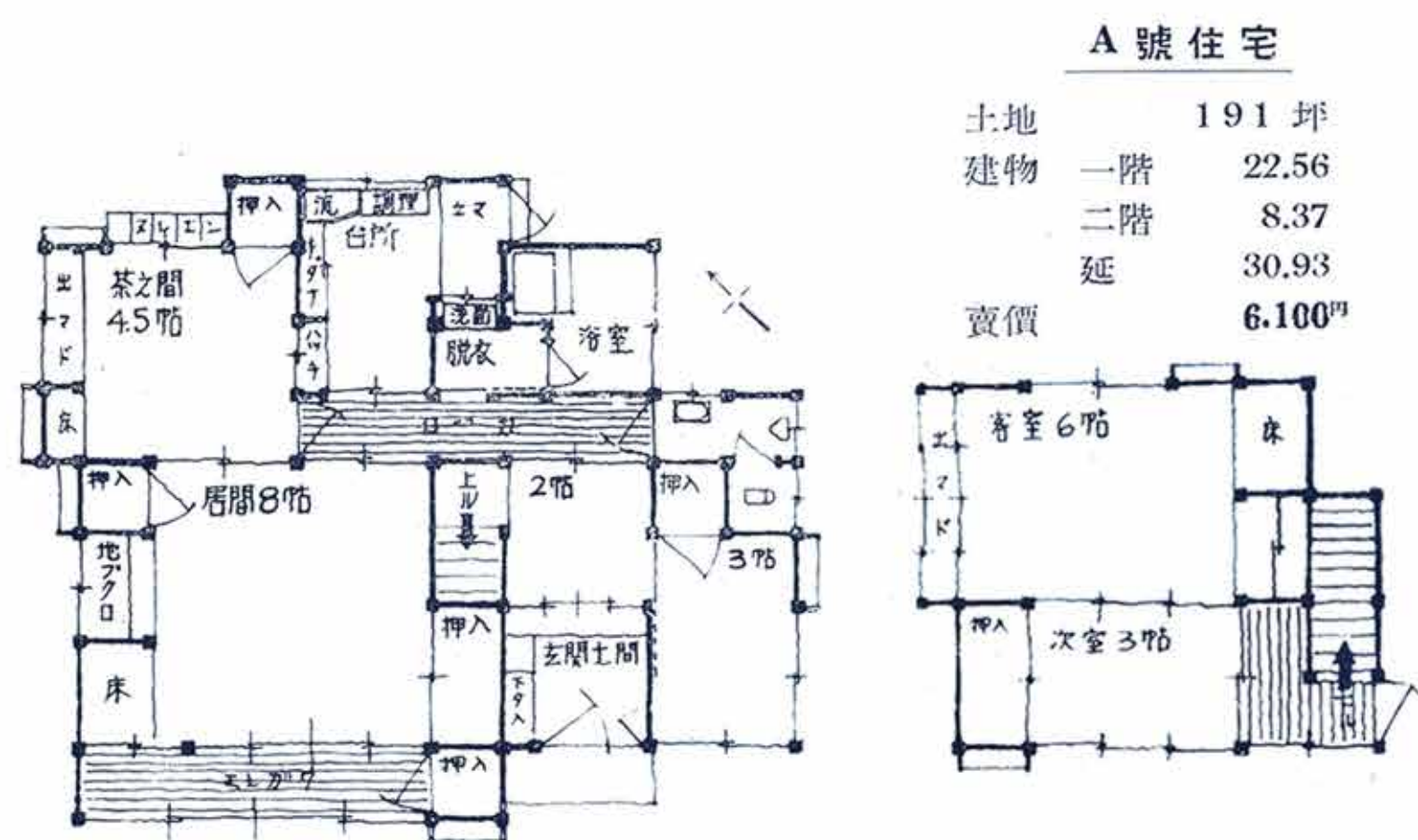
大正時代から昭和初期にかけて、日本の住宅改善や生活様式の近代化を推進した民間団体です。

※2 本間 乙彦(ほんま おとひこ)

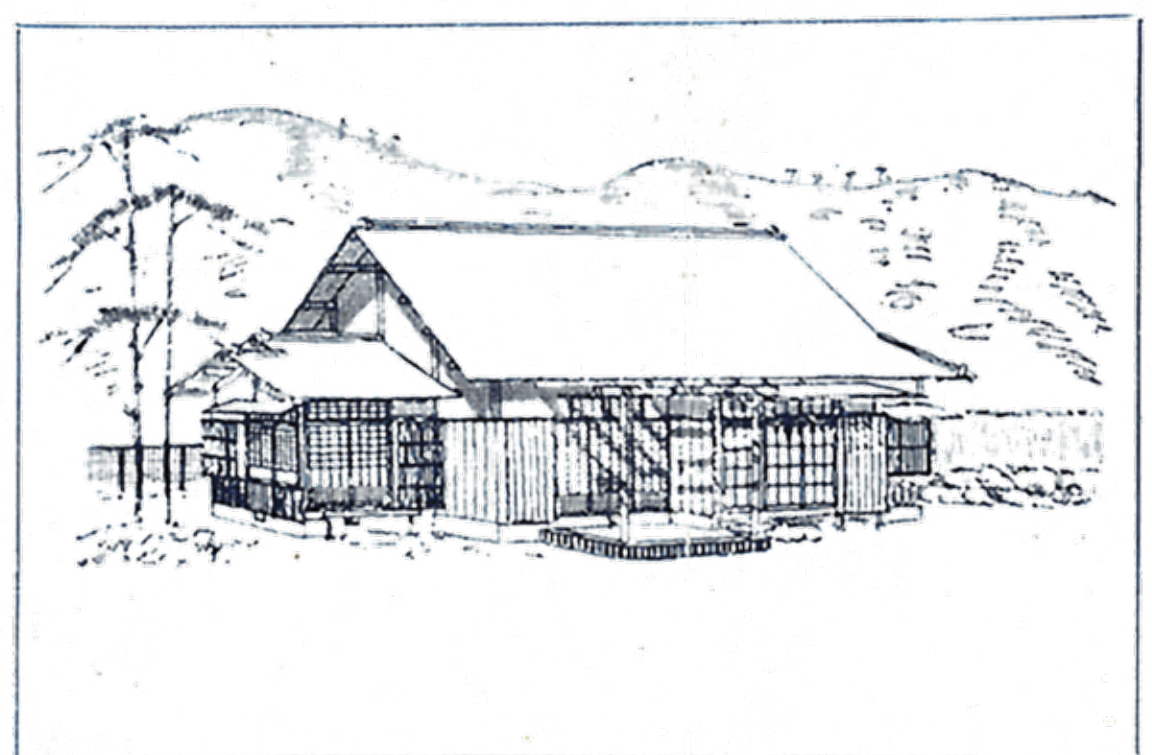
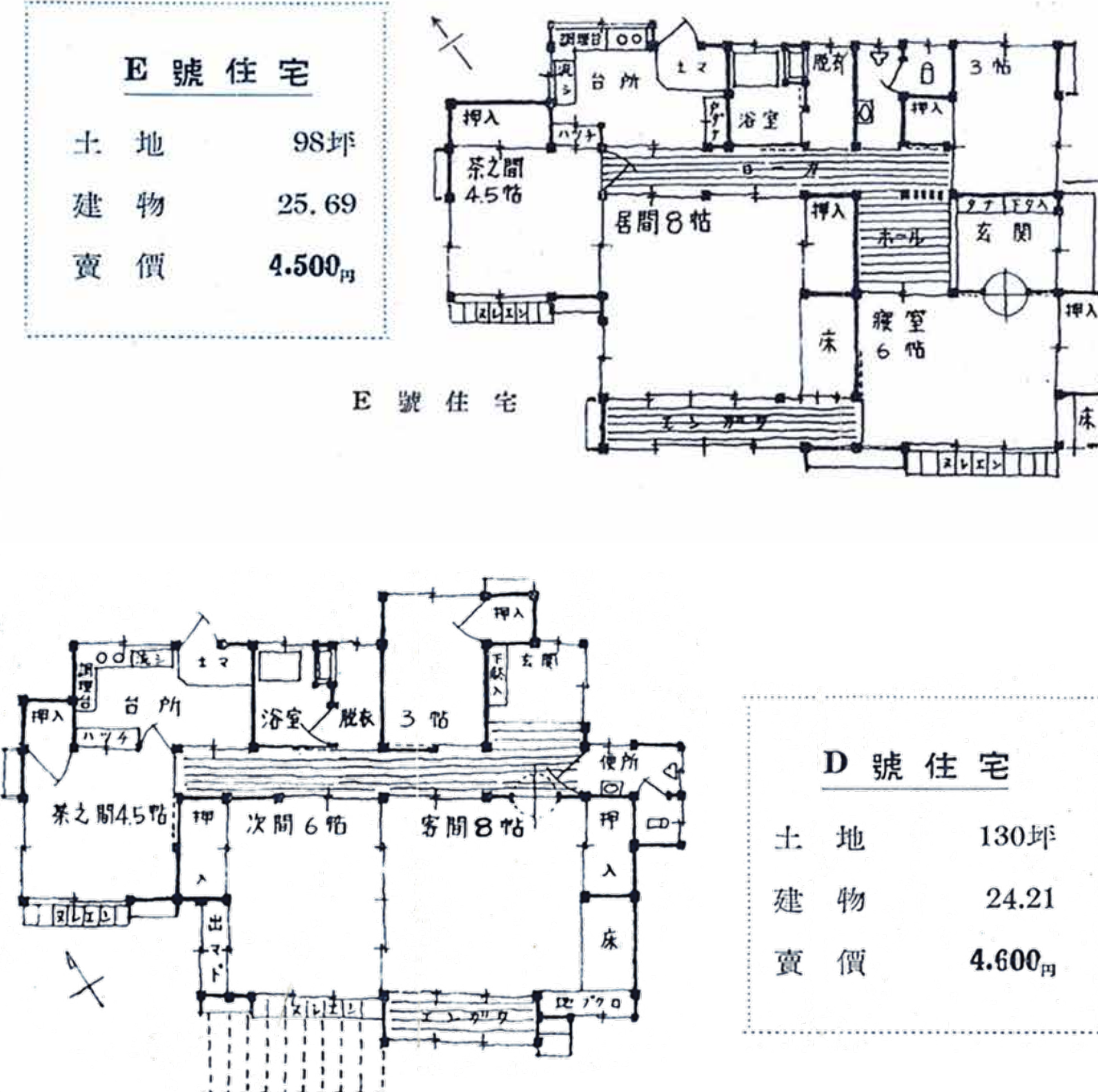
兵庫県出身の大正期から昭和初期にかけて大阪を中心に活躍した建築家。主な作品として、芝川ビル（昭和2年、大阪市中央区、昭和2年旧芝蘭舎家政学園、国有形登録文化財）、小川香料 大阪支店ビル（昭和5年、大阪市中央区、国登録有形文化財）などがある。



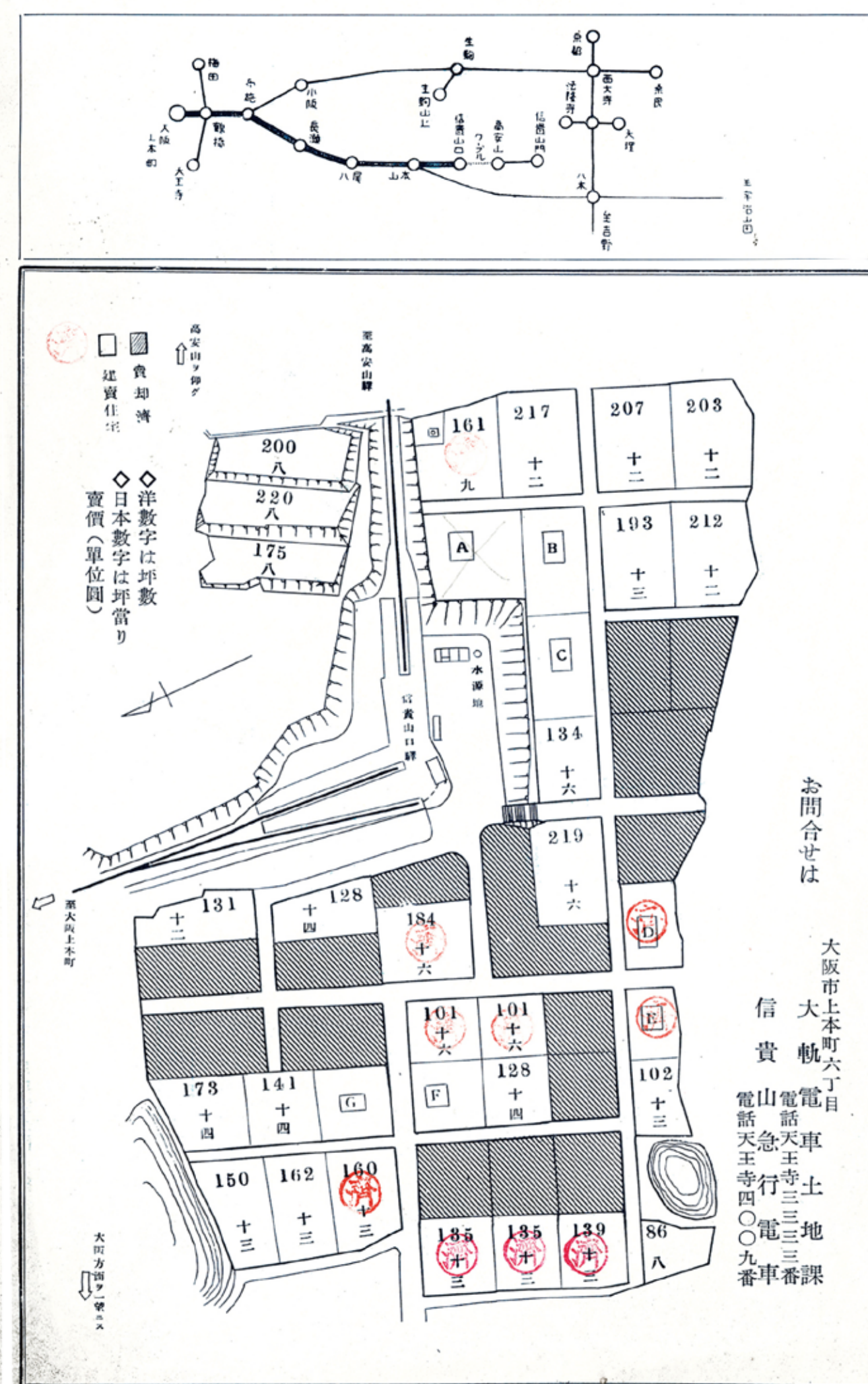
A 號住宅



D 號住宅



昭和23年(1948年)の航空写真、建売住宅の分譲地にほとんど家が建っているのがわかる。



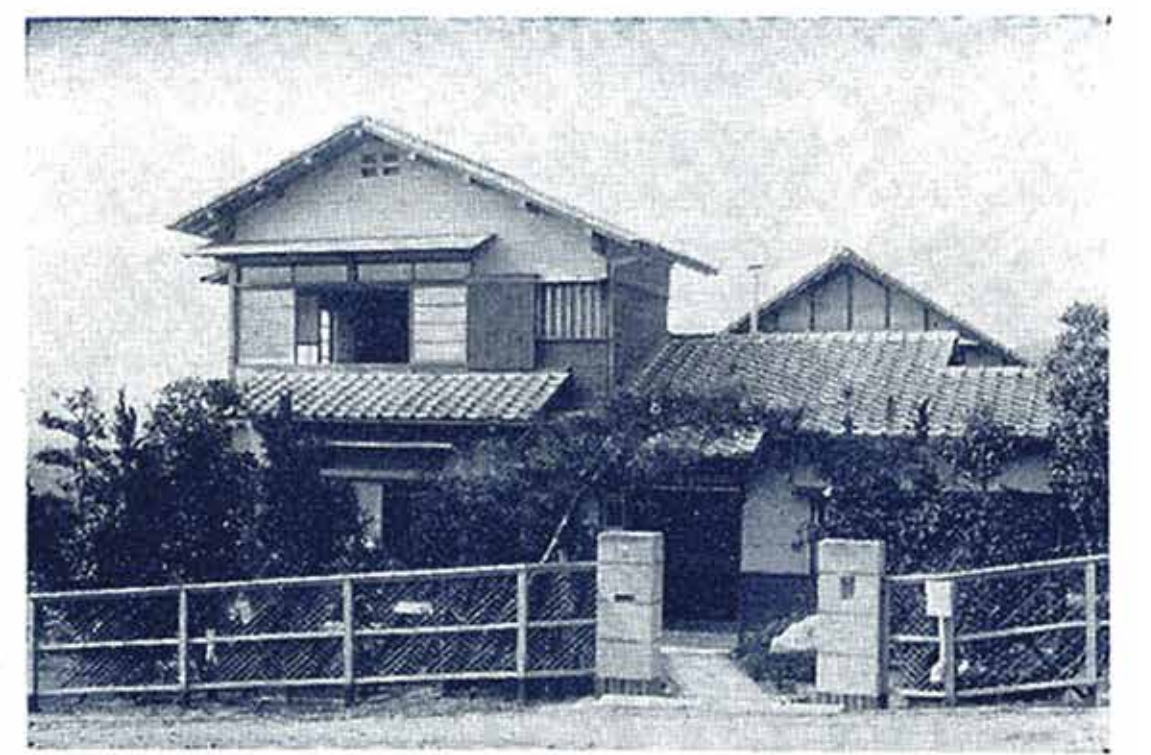
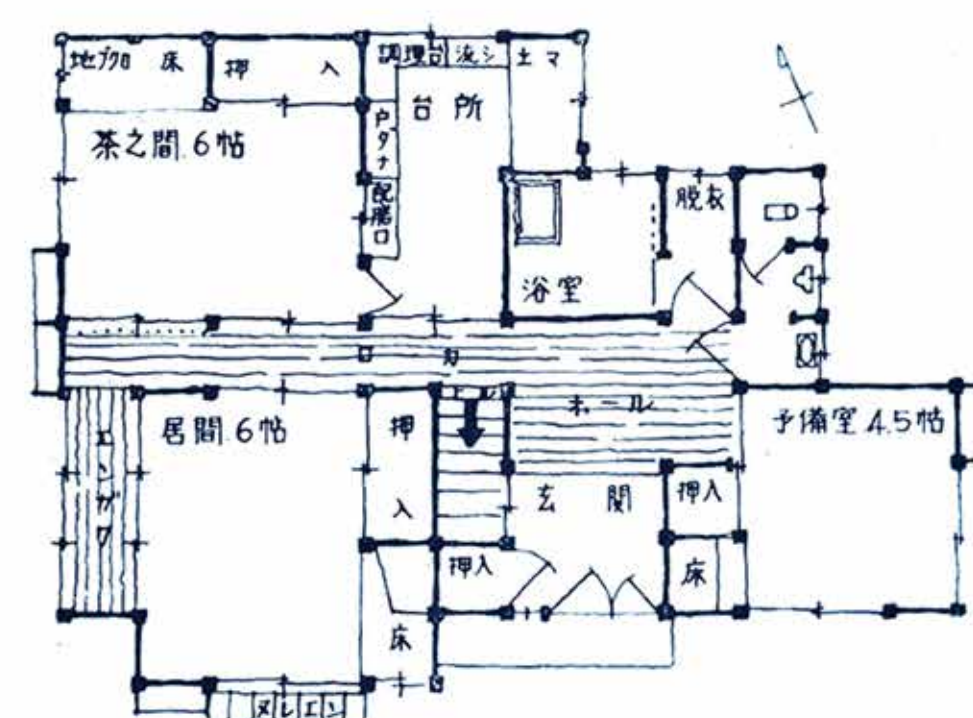
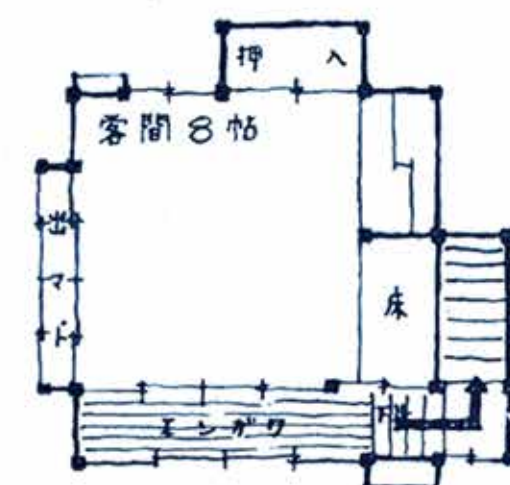
パンフレットの分譲地の地図
駅を囲むように分譲地が配置されている。水源地も記載

地宅住麓山安高



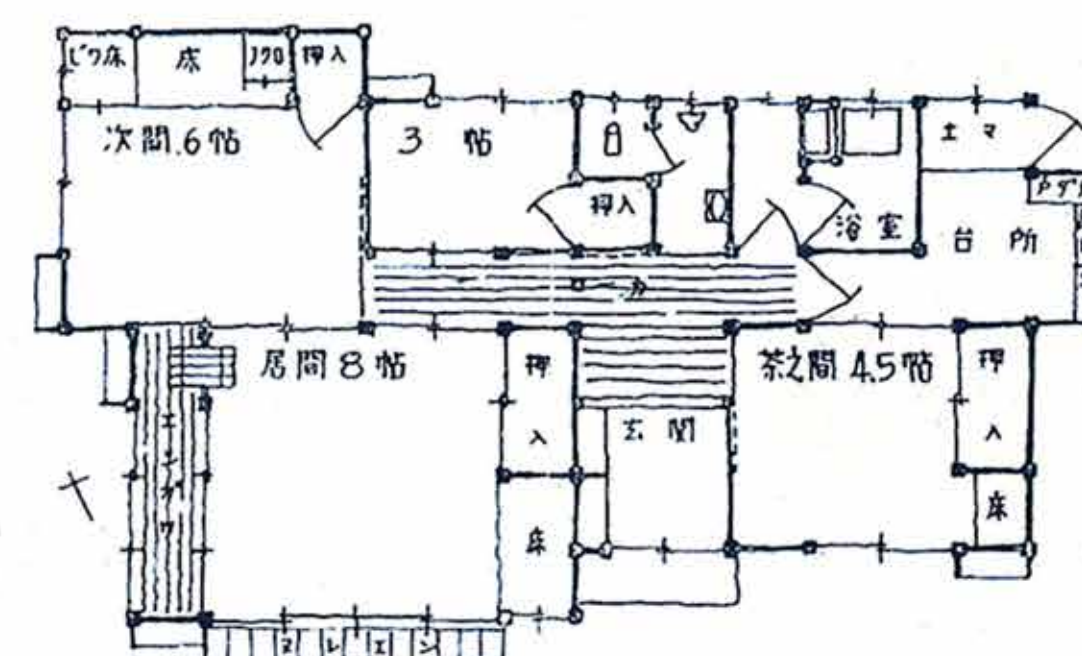
謀地土 車電軌大

パンフレットの表紙



B 號住宅

土地	157 坪
建物 一階	24.56
二階	8.63
延	33.19
賣價	6.100 _円



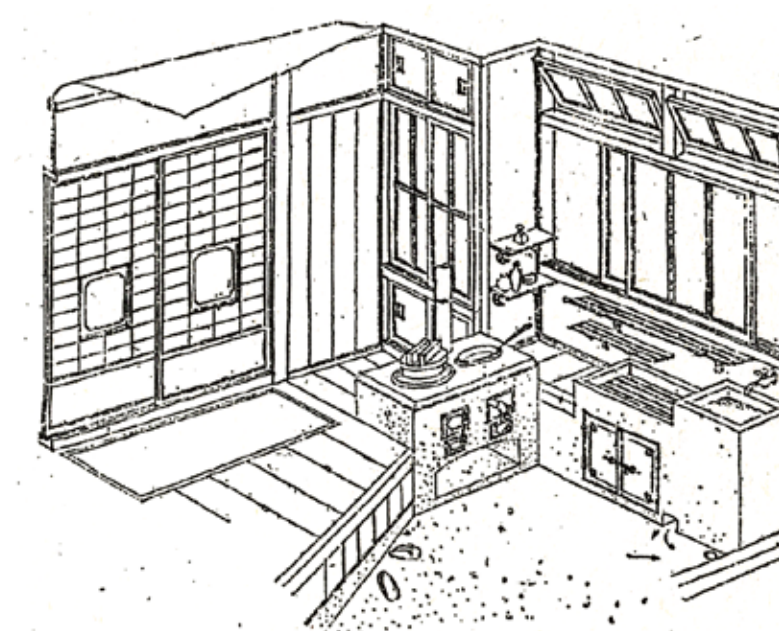
C 號住宅

土地	155 坪
建物	25.50
賣價	5.200 _円

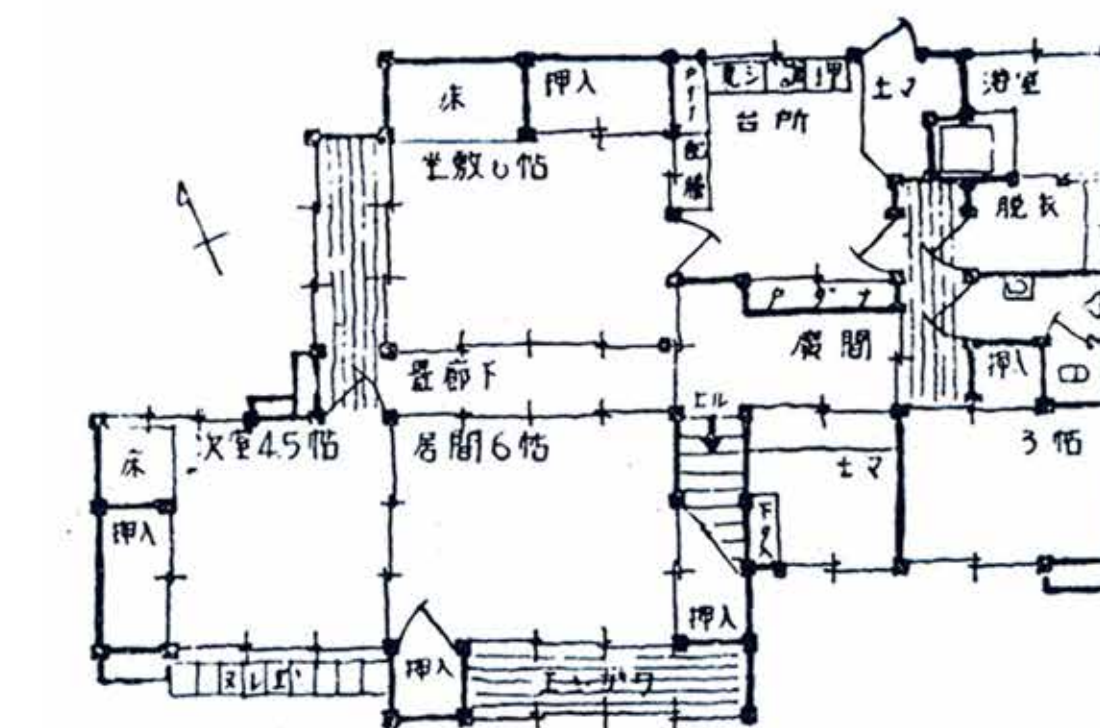
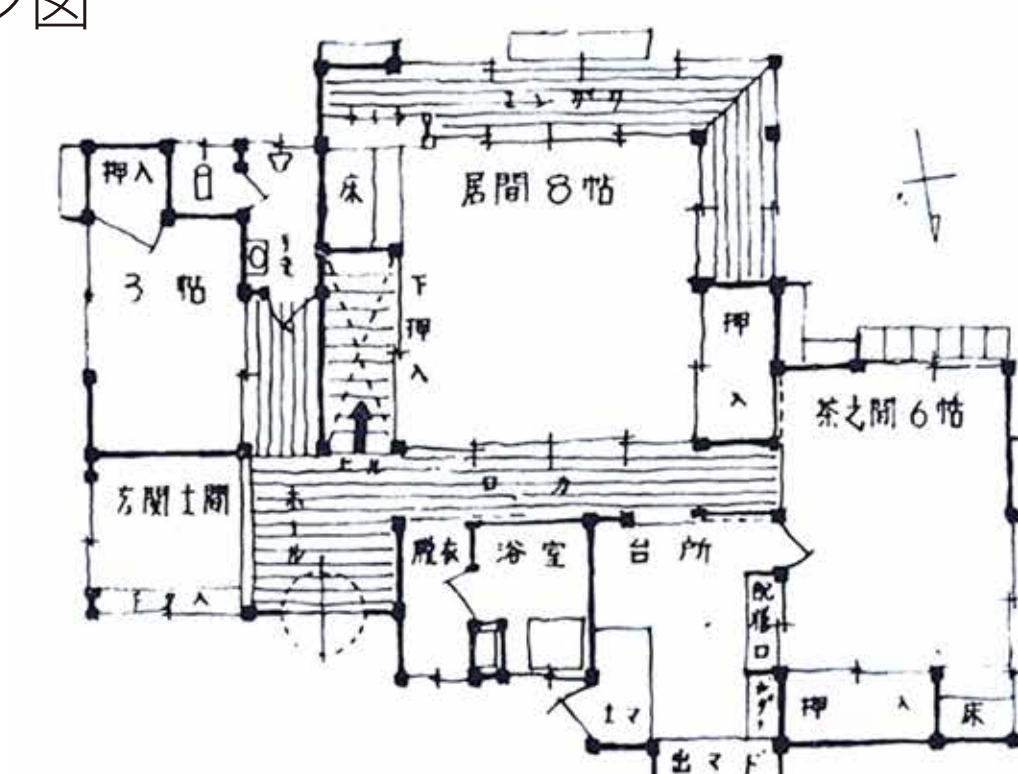
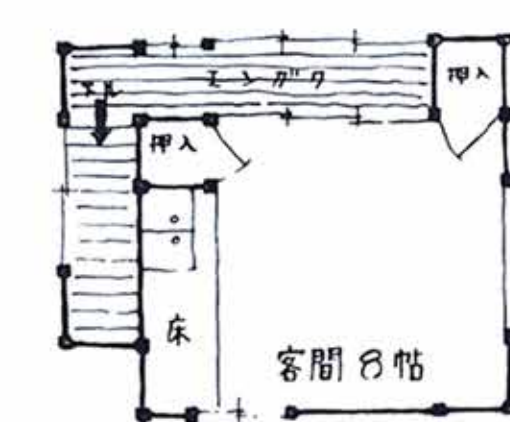
(土地・建物・造園其他附帯工事共)



上の写真の左のC号住宅、右後方にA号住宅があり、さらに右に上水道のためと思われる給水塔がある



当時の台所のイメージ図
建築雑誌第354号掲載
台所設計コンペ入選案
大正5年(1916年)



F 號住宅

土地	129 坪
建物 一階	23.47
二階	8.33
延	31.80
賣價	5.800 _円



G 號住宅

土地	139 坪
建物 一階	27.61
二階	9.62
延	37.23
賣價	6.500 _円



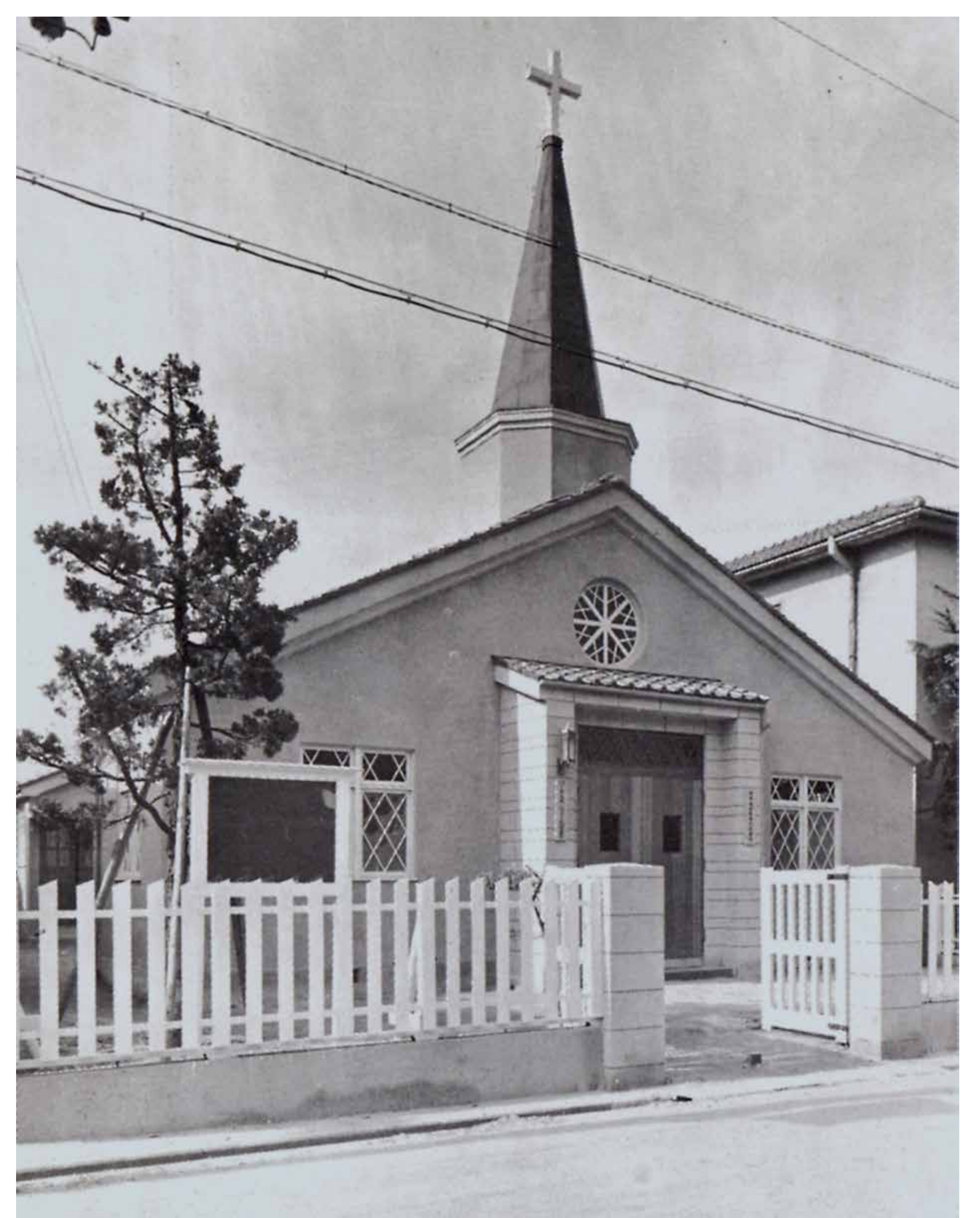
八尾教会正面外観

八尾教会は、1956年(昭和31年)に建築されました。代表作に、心斎橋大丸百貨店・東京都庭園美術館などがあるウイリアム・メレル・ヴォーリズ氏の設計の建築です。アメリカ生まれのヴォーリズ氏は、1905年(明治38年)に来日、その後京都に事務所を開業し、大正時代から昭和のはじめにかけて活躍した建築家で、教会・学校・住宅など全国に確認されるもので約1500もの名建築(1906年～1942年)を残しています。現存する建築で、国の重要文化財・指定文化財・登録有形文化財などに指定・登録されている建築が、50棟以上あります。八尾教会は、市内では、ヴォーリズによる設計の唯一の建築で、最晩年の建築のひとつです。

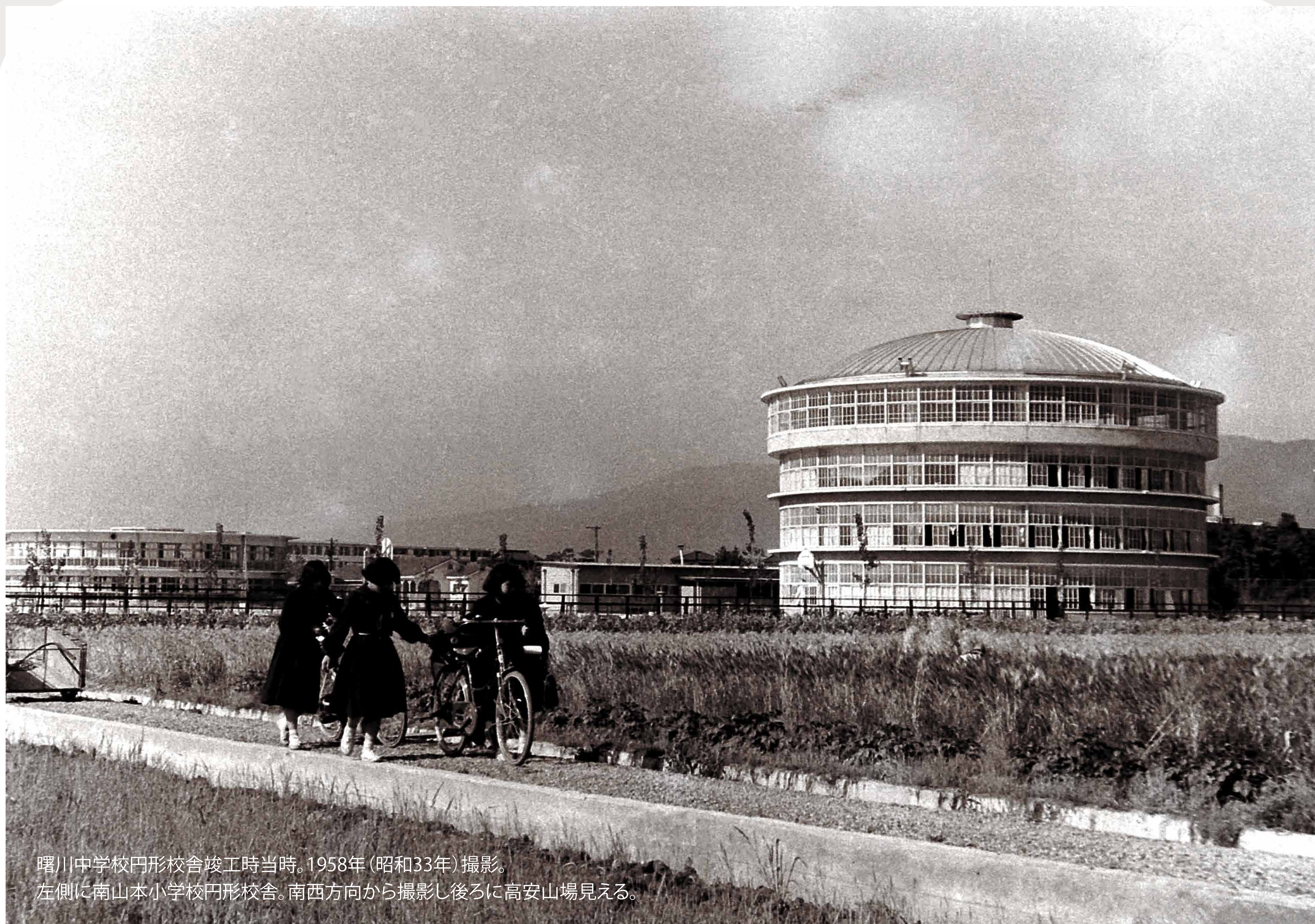


教会内部 礼拝堂

現在の株式会社一粒社ヴォーリズ建築事務所に当時の設計図面が現存しており、比較すると外観や内部も建築当時の状態がよく残っていることがうかがえます。



当時、在日 45 年の宣教師バーナ・S・ハツラー師の長年の功績をたたえ、日米の信者が献金し記念聖堂が、この地に建築されました。ハツラー師は、八尾に縁があったわけではなく、八尾在住の女性信者の活動に感銘を受けて建設地と決めたそうです。1956 年(昭和 31 年)建築完成当時の写真です。



曙川中学校円形校舎竣工時当時。1958年(昭和33年)撮影。
左側に南山本小学校円形校舎。南西方向から撮影し後ろに高安山場見える。

市内には、かつて円形建築が5棟ありました。旧市役所に隣接した円形市民ホール、旧市立病院の看護婦棟と伝染病棟、南山本小学校と曙川中学校の円形校舎です。すべて昭和30年代の初めの建築です。円形建築は、必要な建築資材が少なく総工費が安いことや、敷地面積が小さくて済むなどの利点から、人口が急増する昭和30年代に全国的に数多く建てられた建築様式で、新しい時代の始まりを感じさせる象徴的な建物でした。



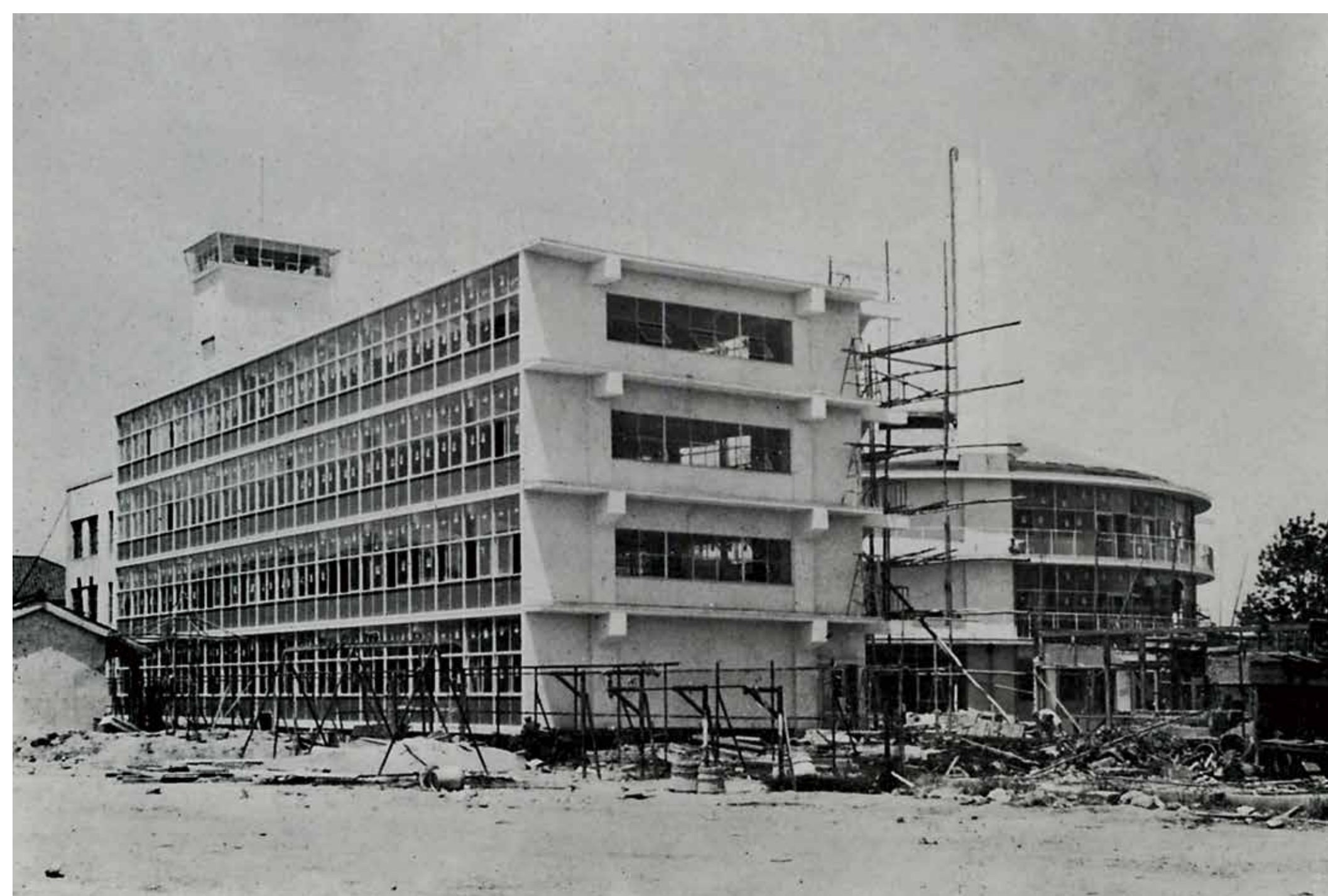
完成直後の南山本小学校円形校舎1957年(昭和32年)

南山本小学校と曙川中学校の円形校舎

南山本小学校円形校舎は、山本小学校分離、開校に合わせて1957年(昭和32年)に建築されました。曙川中学校円形校舎は、翌年1.2km南から現在の場所(南山本小学校南隣)への移転にともなって、1958年(昭和33年)に建設されました。曙川中学校円形校舎は、坂本鹿名夫氏の設計です。それぞれの円形校舎は、曙川中学校は2012年に、南山本小学校は2014年に解体されました。



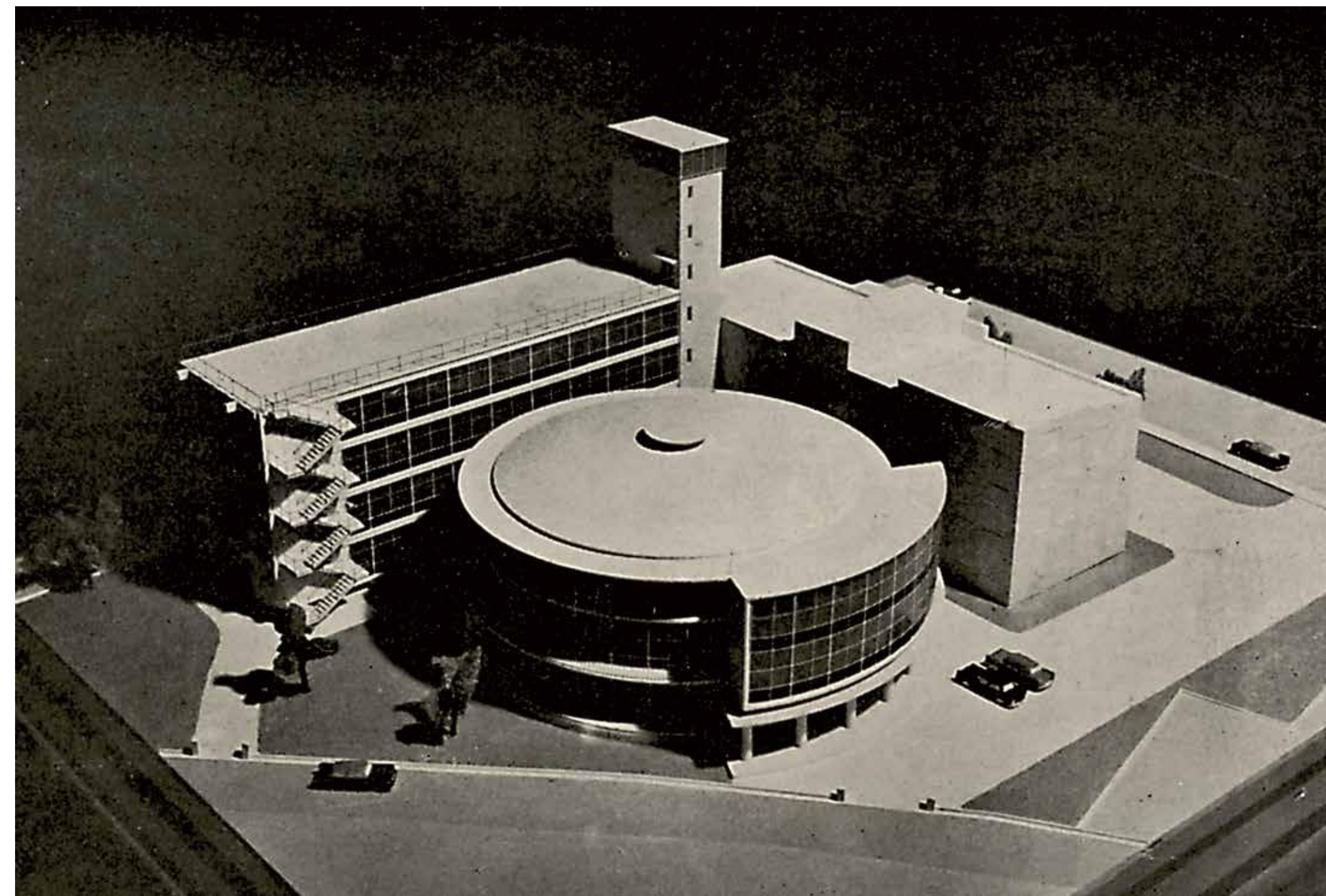
旧市民病院の伝染病棟と看護婦宿舎は、円形建築で1957年(昭和32年)に竣工。2棟とも、設計は坂本鹿名夫氏。写真は、看護婦宿舎で1960年(昭和35年)頃。



旧八尾市役所増築中の写真。左に増築中南庁舎と右に円形市民ホールが見えます。

旧八尾市庁舎と円形市民ホール

1948年(昭和23年)の八尾市発足当時は、旧八尾町役場を市庁舎として利用していました。3年後の1951年(昭和26年)3月、八尾町役場の西隣りに、面積約500坪で鉄筋コンクリート3階建の庁舎が完成しました。その後、人口の急増で庁舎が手狭になり、市制10周年の際に、市庁舎が鉄筋コンクリート4階建に増改築されるとともに、円形鉄筋コンクリート3階建の市民ホールも同敷地に併設されました。設計は、昭和30年代に円形建築をたくさん設計したことで有名な建築家 坂本鹿名夫(さかもとかなお)氏によるものです。



旧市役所増築模型写真。中央に円形市民ホール、左奥は増築南庁舎、右奥が既存庁舎。



信貴山口駅のケーブルカー乗り場

1930年（昭和5年）、関西有数の霊場・信貴山毘沙門天への交通機関として、大阪電気軌道により山本駅(現河内山本駅)～信貴山口駅間の2.8kmの信貴線が、信貴山電鉄により信貴山口駅～高安山駅間の鋼索線(ケーブルカー)1.3kmと高安山駅～信貴山門駅間2.1kmの山上鉄道線が同時に開業し、上本町駅(現大阪上本町駅)から40分で信貴山門駅まで結びました。太平洋戦争の激化により、1944年(昭和19年)、鋼索線および山上鉄道線は「国家総動員法」による「金属回収令」によりレール等金属類の供出を命じられ運輸営業を休止しました。1957年(昭和32年)春の信貴山朝護孫子寺新本堂落慶に合わせて同年3月、鋼索線は13年ぶりに最新の設備で復旧、運輸営業を再開しました。同時に旧山上鉄道線は専用自動車道に改修され、直営バスによる運行となって現在に至っています。現在の鋼索線の線路長さは約1.3kmで、2つの駅の高低差は、354mとなっています。

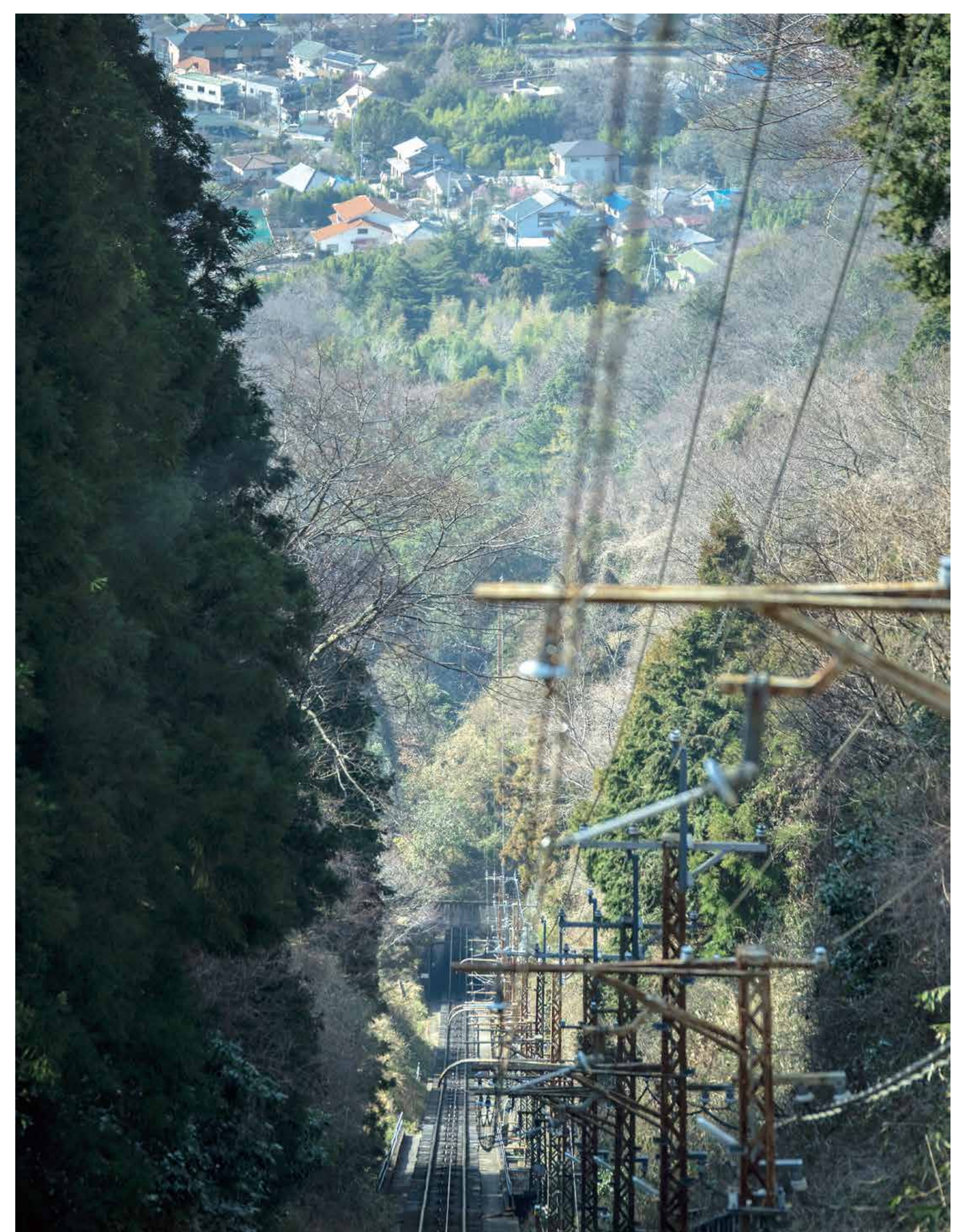


◀ 左の写真が高安山駅です。
ケーブルカーの山頂側の駅舎です。
山頂まで500mの位置にあります。駅前から
信貴山朝護孫子寺へのバスが出ています。



近鉄西信貴鋼索線は、信貴山へ的大阪側からの ▶
ルートで、かつて奈良県側からのルートとして
東信貴鋼索線がありましたが、本施設の老朽化等
のため1983年(昭和58年)に廃止され、現在は
奈良交通のバスが走っています。
信貴山口駅を出発すると、踏切が2ヶ所あり更に
木立の中を進みと、7分ほどでケーブルカーが
高安山駅に近づき、大阪平野が一望できます。

◀ 左の写真が信貴山口駅です。
ケーブルカーの麓側の駅舎です。
近鉄信貴線からの乗り換え駅でもあります。





中央館 1932年（昭和7年）頃



八尾映画劇場 開館当時の夜景

上の写真は、1932年（昭和7年）頃できたといわれる映画館の開館時に撮影された写真だと思います。上部に中央館の文字が見えます。

1955年（昭和30年）には、八尾銀映、八尾映画劇場、日の出映画劇場、八尾松竹の4館が存在し、1959年（昭和34年）には八尾東映（現在のファミリーロード内）、八尾日活（現在の慈願寺の北東）、若草映画劇場（現在の慈願寺周辺）、日之出映画劇場（現在の永畑小学校の北西）、八尾銀映（現在の八尾神社周辺）の5館になり、これに志紀東宝（現在の八尾柏原ドライビングスクール周辺）を加えた6館時代が到来しました。昭和30年代半ばは、映画娯楽が最大のピークを迎えた時代でもありました。

左の劇場と同じ建物、
八尾東映
1957年（昭和32年）頃



昭和30年代後半には、テレビの普及などにより映画館離れが進み、映画館は急速にその姿を消していき、1967年（昭和42年）には、八尾若草映画劇場（現在の慈願寺周辺、本町3）、八尾会館（現在のファミリーロード内、本町5付近）、志紀東宝の3館のみとなりました。その後、全て閉館し現在は、2006年（平成18年）にできたアリオ八尾のシネマコンプレックスだけです。



八尾空港は1933年(昭和8年)に、阪神飛行学校として大正村に設置され、1939年(昭和14年)大正飛行場と改称されました。1940年(昭和15年)から陸軍専用飛行場となり、戦後阪神飛行場と改称され、1954年(昭和29年)まで米軍に接収されていました。1956年(昭和31年)に正式に八尾飛行場としての設置告示が行われ、空港としての基盤が整備されていきました。1961年(昭和36年)第2種空港として指定され、現在のターミナル(管制塔)は、1984年(昭和59年)竣工しました。管制塔の高さは15.3mで、関西国際空港の管制塔(86.4m)と比べるとかなり低いですが、八尾空港における安全運航を守る要であることは言うまでもありません。現在の空港は、面積約70haで、滑走路は、東西に位置するA滑走路(長さ1,490m・幅45m)と、これに交差するB滑走路(長さ955m・幅30m)の2本の滑走路を持つ空港です。国内で交差滑走路を持つ空港は少なく、八尾空港の他では東京国際空港(羽田)と新潟空港、仙台空港のみです。



上記の航空写真は、赤線内が現在の八尾空港の敷地です。隣接して、自衛隊八尾駐屯地や大阪府中部広域防災拠点があります。黄色線内は、1940~1945年(昭和15~20年)に陸軍大正飛行場として軍用に使用されていたところです。面積は、現在の空港の約4.3倍あります。



八尾空港は、敷地面積約70haで、市内最大面積の施設です。久宝寺緑地の1.5倍以上もあります。



八尾空港に隣接する大阪府中部広域防災拠点



大信寺 本堂

現在の本堂は、鉄筋コンクリート造の地下1階・地上1階建て延べ面積1259㎡です。1953年(昭和28年)、白アリの被害により本堂が倒壊したため、1966年(昭和41年)に、京都タワー(1964年/昭和39年)や明石市天文科学館(1960年/昭和35年)などの設計で知られる棚橋諒(たなはしりょう)氏の設計で再建されました。

もとの木造の建物は、本堂が、東京都港区の善福寺に、ほぼそのまま移築され、港区の有形文化財に指定されています。また、表門と鐘楼も、三重県桑名市の桑名別院本統寺に移築されています。



倒壊直後の大信寺1953年(昭和28年)

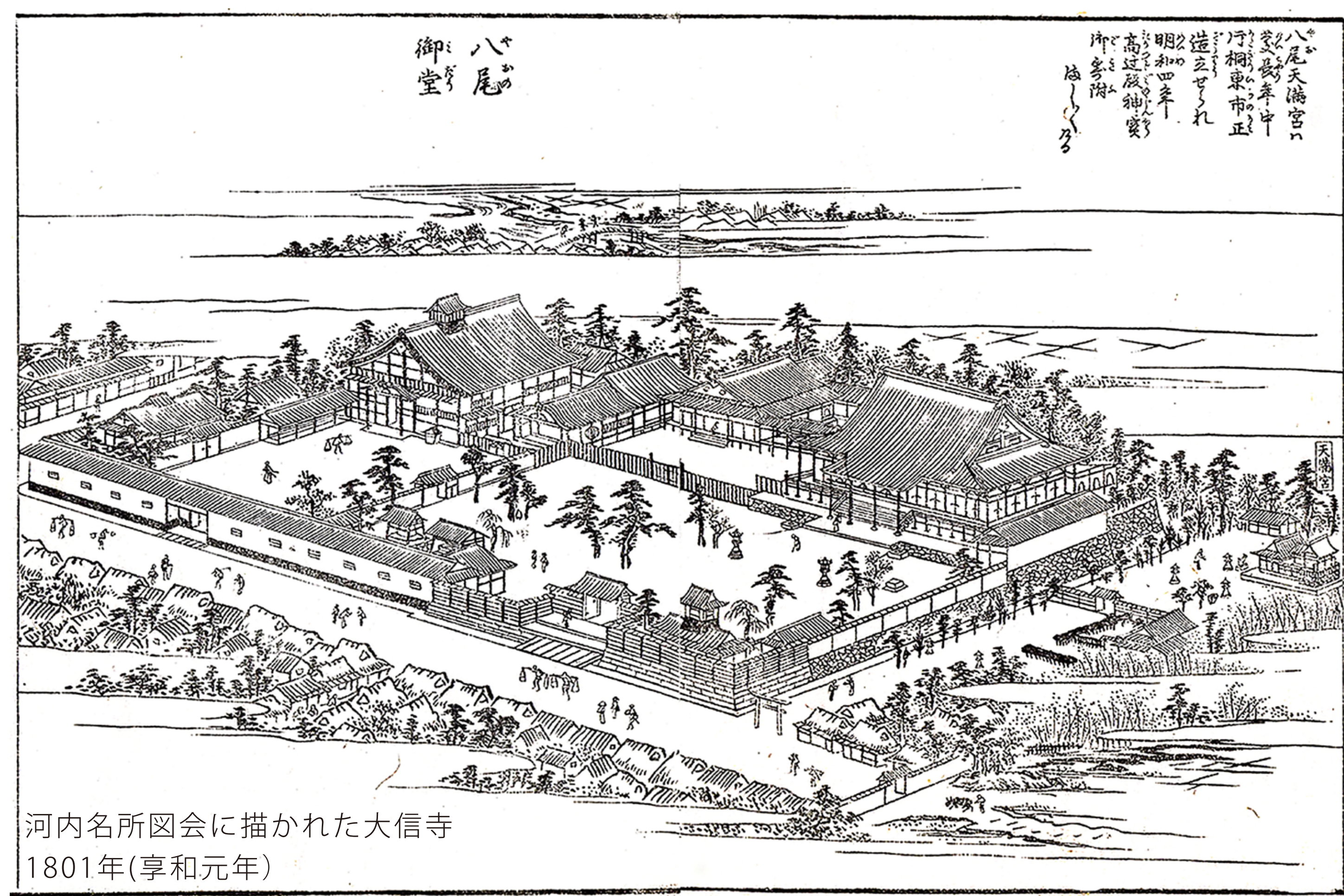
久宝寺寺内町から分かれ、八尾寺内町の中心寺院で、本願寺教如によって創建されました。大信寺の伽藍^{がらん}の構成や建物の様子は、河内名所図会に詳しく描かれています。伽藍には、右手奥の本堂のほか、太鼓楼や、成思庵という茶室、裏^{くり}庫、表門、長屋門など多くの建物で構成されていたことが分かります。本堂は、江戸時代の半ばを過ぎた1767年(天明4年)に再建されたものです。しかし、その本堂は、1788年(天明8年)の大火で焼けた京都の東本願寺に移築され、八尾に再び建てられたのは、およそ10年後の1799年(寛政11年)です。名所図会の刊行が1801年(享和元年)で、まさに本堂が再建された直後の姿を正確に描いたと考えられます。



善福寺本堂(東京都港区)



写真は、1923年(大正12年)頃



河内名所図会に描かれた大信寺
1801年(享和元年)



1929年（昭和4年）頃の
山本停留所（現 近鉄河内山本駅）

八尾市域で、はじめて鉄道ができたのは、1889年（明治22年）に、湊町駅から柏原間に開通した大阪鉄道（現在のJR大和路線）でした。その時に、八尾駅（現 JR八尾駅）は開業し、久宝寺駅（現 JR久宝寺駅）は、1910年（明治43年）開業しました。志紀駅は、1909年（明治42年）開業しましたが、1946年（昭和21年）に一度廃止され、1961年（昭和36年）に再開されています。1924年（大正13年）に、大阪電気軌道国分線（現在の近鉄大阪線）が八尾駅まで開通し、八尾駅が開業しました。翌年の1925年（大正14年）には、恩智駅まで延長され、久宝寺口駅・山本駅（現 河内山本駅）・高安駅・恩智駅が開業しています。その後1930年（昭和5年）大阪電気軌道信貴線（現在の近鉄信貴線）が開通し、信貴山口駅・服部川駅が開業しました。1980年（昭和55年）地下鉄谷町線が、天王寺駅より八尾南まで延長され、八尾南駅が開業しています。



近鉄 河内山本駅 昭和 30 年代



近鉄八尾駅1957年（昭和32年）頃現在の駅の300m西にあった。



国鉄久宝寺駅 1963年（昭和38年）頃



近鉄 高安駅 昭和 30 年代



近鉄 恩智駅 昭和 40 年代前半 高架化工事中



昭和 21 年に廃止され昭和 36 年に再開された

国鉄志紀駅 1963年（昭和38年）頃



近鉄 久宝寺口駅（高架化前の駅前） 昭和 30 年代



国鉄 八尾駅 1969年（昭和44年）頃



地下鉄 八尾南駅 1980年（昭和55年開業 2017年撮影）